

## キンメダイの種苗生産技術開発

(予算区分 行政費 研究期間 平成28～30年度 受託 研究期間 平成31年度～令和3年度)  
担当：水産技術研究所伊豆分場 永倉靖大 深層水科 野田浩之

### 【研究の背景とねらい】

キンメダイは、年間水揚量がピーク時の7千トンに比べて近年は2千トン未満となっており、資源の減少が続いています。県では第7次栽培漁業基本計画（期間：平成27～令和3年度）で、キンメダイを新規で研究対象魚種に採用し、栽培漁業研究に取り組むこととしました。また、国でも平成31年度からさけ・ます等栽培対象資源対策事業（期間：平成29～令和3年度）において、キンメダイを新規栽培対象魚種に定めています。本研究では、キンメダイ栽培漁業に向けた研究の第1段階として、種苗生産技術を開発します。

### 【これまでに得られた成果】

(平成28年度の成果)

- ・尾叉長30cm以上の成熟雌から採卵し、人工授精試験を行いました。
- ・人工授精試験の結果、計3,500尾の仔魚がふ化しました。
- ・種苗生産試験の結果、日齢4から摂餌を開始し、最長で18日間生存しました(写真1)。

(平成30年度の成果)

- ・産卵期である7～9月でも、年や漁場によって成熟魚の出現状況や雌雄に偏りがあることがわかりました。
- ・親魚養成のため、平成27年から30年度にかけて伊豆半島東岸沖漁場で釣獲した総計194個体を、海洋深層水（取水水深270mおよび397m）を用いて飼育した結果、搬入から10日以内に死亡する個体が多く、捕獲・搬入のストレスを軽減することが重要であることがわかりました(図1)。最長で1,028日生残したものの、飼育下での産卵は確認できませんでした。



写真1 キンメダイ仔魚（日齢9）

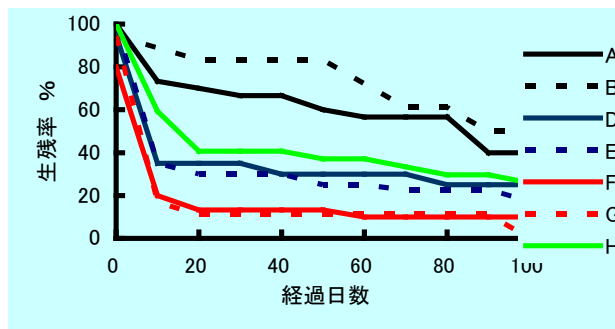


図1 親魚養成における収容回次別生残率の推移

### 【期待される成果】

栽培漁業の推進によって、積極的な資源回復の取り組みが可能になります。また、飼育試験によってキンメダイの初期生態の解明に貢献します。

### 【今後の計画】

確実に成熟魚を確保するために、時期別・漁場別の産卵状況を解明するとともに、良質卵の確保のため、ホルモン処理方法の改良や精子保存技術の試験を実施します。さらに仔魚飼育における餌料の量と質、飼育環境の適正化を図り、より長期飼育を目指します。  
(作成 平成31年4月)